

2016.9 水産大学校予想問題 3

陸上養殖という手法の導入が進んでいる。この養殖方法の長所と短所を挙げ、あなたの考えを交えながらこの養殖方法が将来どのように展開するかを予測して、800字以内で述べよ。

陸上養殖とは、海水に生息する魚介類を陸上の生け簀などで養殖することだ。実際にマダイやヒラメ、トラフグなどが陸上養殖されている。

この養殖方法の長所は、赤潮やウィルスによる病気、悪天候など外的要因を受けにくいことだ。年間を通して水温から餌の管理まで調整できる。そのため、養殖期間が短くなり、生産性を高めることができる。

短所としては、付加価値の高い種類の魚介類に限定されることだ。陸上養殖では水温水質の管理、水の入れ替えなどで生産コストが上昇する。コストを回収して利益を出すためには、どうしても高級魚などに限られる。

陸上養殖は今後どのように展開していくのだろうか。私は陸上養殖に大きな可能性を感じている。その理由として2つの点を挙げたい。

1つめは、資源確保の点だ。近年、クロマグロなどが乱獲の影響で減少し、絶滅危惧種にまで指定されている。これらの魚種を陸上養殖すれば、資源を守ることもできるし、需要に見合う供給も可能になるだろう。

2つめは、衰退しつつある漁業の起爆剤になるという点だ。漁業に従事する人口は減少傾向にあり、高齢化も進んでいる。陸上養殖なら、機械を使って作業を軽減できるし、海の上の作業より安全に作業できる。高齢者でも漁業を継続できるし、若者などが新規参入を考えるかもしれない。

日本は人口減少社会に突入し、全国的に少子高齢化が進んでいる。各地で過疎化が進み、社会生活が困難な状況に追い込まれた「限界集落」も点在している。しかし、陸上養殖の技術が進歩し、より低コストで導入することが可能になれば、過疎化が進む農山村を新たに「漁村」として生まれ変わらせることもできるのではないか。そのような地域は魚介類を供給する本来の機能に加え、土地を活用して財産を保全する機能、就業や交流の場を提供して地域社会を形成する機能など多面的な役割を果たすようになるだろう。漁業は今や海だけの時代ではないのかもしれない。